

第3回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年3月14日（水）19:00 ～ 20:30
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 18人 事務局 教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長 学校教育課主任指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室主任、教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育部長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 第2回地域検討委員会について ※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 原野谷学園の現状及び小中一貫教育を推進するための学校施設等について ※事務局より説明 ※質疑応答</p> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つ報告させていただく。昨年12月から始まった新たな学園づくりに対応していくため、原野谷地域としてこの2月に「地域未来検討会」を立ち上げた。この地域未来検討会は地域の区長やまちづくり協議会の代表役員で構成された検討会で、すでに2回開催された。</li> <li>・ 原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会が学園の在り方の方向を検討していく上で、平成30年度中に原野谷学園の在り方について、小中一貫教育に適した新たな一体型の新設校をつくるのか、それとも今まで通りの学校スタイルという分離型でいくのかを検討し方向性を示していく会であることがわかった。これは、検討委員会に課せられている大きな課題だと自覚している。</li> <li>・ この小中一貫のテーマを進めていく上で、地域と保護者の立場に立った考えや意見がとても大事になる。しかし、この点においてまだほとんど関心が高まっていない。原野谷地域全体が小中一貫に対して大きな関心を持ってもらうため、地域未来検討会は情報提供や意見集約などをするために作った組織である。会長は学園の会長の久米会長が行う。</li> </ul> <p><b>【委員長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域未来検討会は地域の未来を検討していくということで、その趣旨は、地域住民の意識醸成、高揚、関心を高めるところが非常に大きいところである。本当に素晴らしい検討会を立ち上げていただいたと思う。</li> <li>・ 地域住民の方々の意識が高まってかないと、検討委員会で議論しても進歩しない。地域住民の意見というのは第一だということである。</li> <li>・ 意見が熟成してくれば、他市町では地域住民からの要望書というものが作られてくる。要望書はもちろん検討委員会で出してもよい。地域住民全員とはいかなくても、大多数の意見が反映されたような要望書なども出すということも、今後具体的にできる可能性がある。</li> </ul> <p><b>【副委員長】</b></p>	

- ・2月26日に第1回の地域未来検討会が行われて、市の方からも参加され、今後のスケジュールについて示してもらった。そのことによって、これから自分たちが進めていく方向がはっきりとした。その点が大きい。
- ・地区の組織が、原谷と原田が分かれている。その連携を早く密にして一本化していかなければならない。かなりのスピードでやっていかないといけない。

**【委員】**

- ・原野谷中学校の校舎の件で、校舎が古いということであるが、60年ともなると後何年ぐらい持たせられるのか。

**【事務局】**

- ・基本的には構造物は、鉄筋コンクリートが安全上問題ない強度であれば、外壁の塗装や、内装のやり替え等を行えば維持できる。
- ・コンクリートはアルカリ性で、酸性化、中性化してくるにより劣化する。そうすると中の鉄筋が錆びてくるというような現象が起きる。それはこの大気中の条件によって進行状況が変わる。一概に何年維持できるかと示すことは難しい。

**【委員】**

- ・その耐久年数等、もう少し皆さんに話した方がよい。限界をアピールすることも必要。
- ・校舎が古いというのは保護者として心配なところがある。

**【委員】**

- ・大雨の日、2階の教室の天井から雨漏りした。3階建て校舎だがなぜか2階の教室からであった。おそらく壁の横の色々な隙間から入ってきた雨水が、天井にたまって落ちてきたのではないかと考えられる。
- ・その様子から、吹きつけ修理をやるのではないかと考えられるが、その費用をかけるのであれば、建て替えしかないと思っている。建物全体として何とか維持できても、所々が傷んでいると感じた。
- ・築60年あたりを目処に、次なる校舎の設計を行っていかないと、大きな地震が来たときに傷んだところからあちこち崩れるのではないかなと心配している。

**【委員長】**

- ・切実な問題であり、建て替えてほしいという要望は非常に強いということが共通している。
- ・建て替える際に3つの形態があると事務局から説明があった。1つは一体型、他に隣接型、分離型がある。分離型は、今までと変わらないが、建て替えるときにあえて今までと同じようなものでよいか。分離型の強い希望があれば別だが、この委員会で強い反対がなければ、一体型ということに協議を絞っていきたいと思う。

**【委員】**

- ・もし一体型にしたとして、1つの学校に生徒が集まるという形になるが、今まであった他の校舎というのはどうなるのか。3月11日に防災訓練があったので、もし震災があったら、避難する場所が地域にほしい。

**【委員長】**

- ・使用しない校舎そのものをすぐに壊すという事例はあまりない。グラウンドや避難場所として使用する。
- ・山梨県市川三郷町のように、住民施設にして、高齢の方や若い方のトレーニング施設として、地域住民が使えるよう活用するところもある。場所そのものが残るとというのが一般的である。

**【事務局】**

- ・もしも、一体型になって、他の校舎の使い方についてはこれ自体が白紙であり、どうしていけば良いのかということも御意見をいただきたい。また、まちづくりの考え方もあるので、照らし合わせながら、よりよい方向に進めていきたい。

**【委員】**

- ・長い目で見て検討していければということか。

**【事務局】**

- ・校舎を建てるにも、来年すぐにとというわけにはいかない。皆さんと一緒に検討を重ね

ていくことが大切であり、また、予算的なこともあるので、そのあたりも含めて考えていかないといけない。今後の課題である。

**【委員長】**

- ・今までの学校施設は地域住民が有効活用できるように、あるいは災害等の避難所、避難場所となるように活用してほしいと、要望の中を含めれば、可能であろう。そういったことも検討していきたい。

**【委員】**

- ・先日保育園の方で、子どもがお便りを持って帰ってきたそうで。意見交換会の議事録とか、話し合った内容が細かく書かれていた。ここの委員に選ばれていないお母さんから、「〇〇さんのお母さん役員になっていたんだね」と話しかけられた。知っている人がいるとしっかり見てくれる。定期的に委員会をやっていることを、お便りで伝えた方が「こういう話をしたんだね」とか「初めて知ったね」等御理解いただける。

**【委員長】**

- ・原野谷学園新たな学園づくり検討委員会の地区回覧が回っているので、そういう所に、保護者の名前や、身近な人の名前があると自分のこととして捉えられる。
- ・方向としては一体型ということで一致を見たとしてよろしいか。一体型での要望等も前向きに出されると、具体的な学校建築を考える場合に、皆さんの意見が反映されていく。

**【委員】**

- ・同一校内に小中学校があるという状況について、はたして児童生徒の様子はどうか。一体型の施設形態だから良いということが、子どもたちの様子から見えてこないと分からない。これまでの資料のどこかに出てたかもしれないが、そのような様子を伝えていくことがよい。
- ・保護者が想像できる必要があり、やってみないとわからないではよくない。ぜひ子どもたちの表れを強調できると良い。

**【委員長】**

- ・前回検討委員会で資料提示された原野谷学園の小中一貫教育は、現在取り組んでいて、効果があるように見受けられた。強調する意味では大丈夫かと思う。

**【委員】**

- ・一貫教育の視点で教育活動を計画的に行うため、こうやったらいいだろうということを想像しながら行っている。もちろん効果が無いようなことを初めからやることはない。
- ・普段の日常生活、授業以外の部分での小中の関わりというのが、普段はあまり見えない。普段の生活の関わりというのは、まだ未知数だなと思う。

**【委員】**

- ・今現在だと小学生と中学生がどこかで一緒に遊んでいるという少し問題がある様にも思われる。小学生が中学生に小間使いにされているんじゃないかと思われるかもしれない。

**【委員】**

- ・子どもたちは塾とかで忙しいので、小学生も夕方遅くまで遊ぶというのはあまりないように思う。

**【委員】**

- ・小学生と中学生が集まったときに、朝から帰りまで、あるいは、休日の子どもの様子に本当に良さがあるんだよということが出てくる方が良い。

**【委員長】**

- ・これまで実証されたもので地域住民が理解していただくことが大切。

**【委員】**

- ・先ほどの小学生と中学生の交流という話があったが、娘が中学1年生で、下校が早い日に、近くの公園に小学生も集まってみんなで遊んでいることが多い。ボール投げしたり、鬼ごっこしたり、同じレベルで遊んでいる。そういうところで小中一貫というのが、目に見えて形になってきている。どういう風に話して集まっているかは分から

ないが、子どもたちが喜んで遊んでいることから効果があると思われる。

#### 【委員】

- ・周りのお母さん方から意見を聞いたところ、中学生と小学生が同じ校舎の中で過ごす中で、中学生の行動を小さい子たちが見ることが心配だという意見もあった。思春期の子たちが起こす行動に対して、もちろんいいことも多いと思うが、懂れる部分もあったりする。早く大人びてしまうんじゃないかという心配の意見であった。
- ・地域の子どもたちを見ていて、いい影響がある、お手本になれるというところを示せると、小さい子どもを持つお母さんたちが、先輩を見て育てられると思えたらすごくいいことだと思うが、やっぱり不安もある。

#### 【委員】

- ・逆に小中一体型の学校のようになれば、中学生がリーダーになってやっていけるという面で見ることができる。

#### 【委員】

- ・子どもが小学生で、スポ少でバレーをやっている。子どもたちが少なくなったので、原田と原谷で同じチームで取り組んでいる。指導者は中学校も小学校も同じである。
- ・時々卒団した先輩が小学生の練習を見に来ている。指導者が話す言葉がわからないときには、中学生や高校生が、お手本を見せてくれている。また、わからないことを先輩に聞くなど、学校外ではあるが先輩が小学生のお手本になって良い交流をしている。
- ・逆に、下の子たちができることが中学生ができないと、恥ずかしいという気持ちもあるので頑張ろうという気持ちになる。良い交流だと感じる。

#### 【委員長】

- ・一体型のメリットを子どもの姿で説明できることは有効である。施設面等での御要望や提案があればぜひ出していただきたい。
- ・資料の中の、沼津の静浦小中一貫校では、4階まで図書館があるという素晴らしい形で、パソコン・メディアセンター等を作っている。新しい学校を作るのであれば、そういう新しい学校形態を作っていただきたい。そういう要望はぜひ色々出していただきたい。

#### 【委員】

- ・例えば、原野谷中を建て替えるとしたら、北校舎の特別教室棟の1階あたりに図書館やパソコン室的なものをつくり、地域の方も利用できる施設にできたら良いというイメージを持っている。昼間から新聞や本を読みに来たり、夕方は「あんり」から帰ってくる親子が読み聞かせの本を選んだりするなど、地域の方が自由に使える図書館があったらと思う。

#### 【委員長】

- ・温水プールや室内プールというようなことが他の市では出たりもする。予算には縛りがあるが、要望であるので、「もの」を作っていくという趣旨で御意見があればぜひ伺いたい。
- ・およそこの資料にあるような新しい形態というのは可能ならばぜひ取り入れていただきたいというようなことでよろしいか。地域交流ゾーンやアートスペース等いろいろある。サロンやティーチャーズステーション等、工夫されている。
- ・大学も新しい教室を作っている。その1つの机についてであるが、今、アクティブラーニングとよく言われ、子どもたちが先生の指示によりグループを自由に作り、そしてグループがまた別のグループと一緒にすることがある。机の形として繭みたいな形をしている机で、2つの机がすぐに3つつなげることできる、簡単に離したりもできるといった学習机もある。そういうコーナーなどがあると、素晴らしく学習が進み、意見が活発に交わされる。

#### 【委員】

- ・この地区を企業としてみたときに、地元のつながりが結構強いというイメージがある。地域一体型になったときに、細かい地区でまとまっている地域の方との交流が、原野谷中学校区全域に広がっていくのはいいことだと思う。逆に、広がることによって、かなり密接な地域の関係が希薄にならないように、できれば既存の小学校の施設とか

を有効活用するなど考慮してほしい。

- ・地元で人も育つし、帰ってきたいという若い子が増えるのではないかなと思う。

**【委員長】**

- ・現在ある密接なつながりは、ぜひ壊さないように。そういったことも活かして地域の人材育成につなげていただきたい。
- ・この協議事項は以上でよろしいでしょうか。また、さらに提案等あれば途中でも意見を願います。

(2) 学園内の学校施設の在り方について

**【副委員長】**

- ・昨年の8月に静浦小中一貫校の視察に行き見学をした。そのときに一番心に残ったのは、交流スペース。色々な角度で交流ができることが良いと思った。教室の幅ぐらいの廊下があり、廊下と教室の境も全開になる。全体がワンフロアになる。あれは子どもたちにとっても色々な交流ができるということで良いと思われる。

**【委員長】**

- ・今、照明なども色々な照明の工夫があり、子どもの健康、目に優しい、そしてきちんとした光度が得られる。そうした新しい照明や採光、光を取り入れることなども工夫があって、現代の時代に合った工夫が必要。そうしたものも含めて御意見を。

**【委員】**

- ・子どもの数で中学生の数が減っていても、小中一体型で小学生の数が増えるということになれば、この敷地面積がもう少し広いと良いという思いがある。もし用地を広げることが可能であれば、広げた方が安全に子どもたちが遊んだりする場所を確保できると思う。
- ・現在、原野谷中学校は駐車場が非常に広く確保できており、中学校の強みである。車でないと訪れることができない保護者もいる。地域と一体型となると地域の方の来校も増える。車で訪れる方も多と思うので、そう考えると、もう少し敷地を広くしておいて、遊具スペース等用意していけたらと思う。

**【委員長】**

- ・榛原中学で400mトラックを作った。それが実現可能かどうかは別として、そうしたこともあり得ると思う。
- ・用地の確保はかなり時間がかかり、早めに動かないといけないと思うが、そういった要望は出した方が良く思う。要望を出しても時間や予算がかかると思う。
- ・実際にそういう土地があるのかどうか、どうなのでしょう。提供してくれるところがあればありがたい。

**【委員】**

- ・土地については原野谷中学校区にはあると思われる。
- ・学童保育所について、通う子どもが年々増加しているので必須である。今、原田でも原谷でもあるが、当然学校近くにあるので、敷地内にとすることは前提としておいてもらいたい。
- ・特にお母さん方の働き方にもつながってくる。

**【委員】**

- ・原田や原谷に関係なく原野谷全体を考える立場できたが、今その必要性をとて強く感じている。少子化、老朽化の問題が出ているが、小中一体型の大きな校舎ができる大きなチャンスの時かなと思う。
- ・心配なこととして、1つは、原谷と原田の温度差があること。原田は危機感がいっぱい、6年後に現在80人いる児童数が50人を切る予想であり、30人減る。これは掛川市内で一番の減少率である。原谷小は増えており、地域全体としては、原田から原谷へ来ていると思ったらい。しかし原谷は何も危機感がない。何も変わらないし、今まで通りの学校でいいじゃないかという発想である。
- ・原田、原谷地域は運命共同体だと思う。原田小が万一存続の危機ということになったら、原谷小と原野谷中の2つだけの学校というのはあり得ない。原野谷中はなくなっ

ていく。原谷小は大きいので原田の人たちが来るかもしれない。しかし、原谷小の子は卒業したらどこへ行くんだというのが、次に見えてくることかなということで、大変な心配が未来検討会の中でも出始めている。

- ・1小学校、1中学校がずっと存続していけるのか、それは大変心配なことである。
- ・原谷小の地域の人たちは、原田地域が困っていることに関係ない意識でいたらよくない。もう原田だとか原谷だとかではなく、もう一度全体に声を掛けてほしい。特に原谷の人たちはあまり危機感はない。変化がないし、小学生は増えていく。

**【委員長】**

- ・これから様々な場で意識を醸成するということが大事。区長会や様々な地区の代表の方々にもぜひお願いしたいところである。

**【委員】**

- ・施設の件で、今掛川市内の小学校にはグラウンドにナイター設備が設置されているが、中学校はない。もし一体型の施設になったとき、ナイター設備もあると、地域の人たちが使え、照明が付いて明るくなって賑やかな感じになるし、その方が良いと思う。

**【委員長】**

- ・ナイター設備は、現に小学校には全部あるので、小中一体型になったときには、ぜひそれがほしいということか。

**【委員】**

- ・施設の面について、静浦の小中一貫学校の視察したとき、ものすごく細かな配慮がされていた。7歳から15歳まで、心身ともに全く異なるので、校舎の階段や水道の位置が低い等、1年生には1年生への配慮や、中学生には天井が高くなっていたりする等、本当に細かなところまで配慮がされていた。
- ・一体型の同じ校舎の中で生活することも1つだが、やはり育ちが違うので、7歳の子が生活するスペース、また、外でも安全に遊べる環境というところは、きちんと考えて設計していただかないと安全面を考えると心配なところがあると思う。

**【委員長】**

- ・小学校から中学校の9年間は異なり、その発達段階に応じた学校施設が必要である。
- ・一体型の学校の必要性に関する住民への広報が必要であるということと、一体型の施設設備面で、発達段階や新しいタイプの施設や地域交流といったものが必要であるということ。

**【委員】**

- ・一体型のメリットとして、教育活動とか、授業の充実といったソフト面のところは魅力があって良いと思う。
- ・しかし、例えば一体型の学校をつくっても、新しく子どもが増えなければ、結局つくったけど廃校になってしまう。そうなってはいけない。
- ・一体型の学校に魅力がないといけないと思う。ソフト面だけの魅力で例えば、新しく住民が来て、あそこの学校がいいから原谷、原田に住もうと思うかどうか。
- ・学校が地域住民にとって魅力のある施設、例えばお年寄りが集まるコミュニティーセンター的な機能もほしいが、やはり若い人が来てくれないと子どもは増えない。
- ・子どもを育てるような年齢の人にとって、魅力のある施設にしないといけないと思う。例えば小学校には、遊具があるが、子育てしているお母さんがあそこに行けばすごく充実した遊具があると感じたり、平日図書館を利用できる等必要である。
- ・商用施設を学校の校地に隣接して、ついでに買い物ができるようにすれば、原野谷に住むと便利で、学校行くと本も借りられるし、子どもは遊べるし、買い物もできてしまう、そんな魅力があれば若い人たちが集まってくると思う。建設しても存続しなければ意味はないので、子育て世代が住みやすい学校を考えた時に何が必要かなと考えることが必要だと思う。

**【委員長】**

- ・若い人への魅力化が非常に重要であるということ。遊具や図書館、商用施設。それもこの時代非常に良いではないかと思う。そういったことも考慮して考えていくことは重要なことである。

- ・行財政改革審議会の委員を2年間させていただいたが、例えば市役所の中に地域の人  
が来れるコンビニ的な所をつくっていけば収益の還元になるという提案も出ていた。  
学校と生活の棲み分けは必要だろうが、新しい発想というのは、ぜひ実現の可能性を  
探っていくことが大事だと思う。

**【委員】**

- ・学童も大事だが、高学年になると塾とか習い事に行く子が増える。特に原田地区は全  
部送り迎えをしなければいけない。すごく大変であり、協力しあっている。
- ・例えば温水プールがあるというのならば、学校にいればそのままプールも習いに行け  
るとか、学校の先生ではなく放課後に勉強を教えてくれる、帰りは保護者が迎えに来  
るといふ風になると、朝学校に行けば、子どもたちは夕方まで遊んで過ごせて、勉強  
もできるようになる。
- ・学校に行きさえすればできるよというふうになると、すごくありがたいし、他の地域  
から、働きながら子育てしているお母さんがあそこに行かせたいと思うんじゃないか。

**【委員】**

- ・先ほどの敷地問題において、一体型の学校ができるという想定であるが、その場合、  
区画整理、住宅を兼ねた整備が必要と思う。今の段階では、人口が増えるかわからな  
いが、原野谷中学校が一体型となって、この中学校に持ってくるのであれば、この周  
囲の区画整理ができれば良いかと思う。

**【委員長】**

- ・区画整理という新しい視点。そうしたものも連動していければよいが。長期的な計画  
も必要だと思うが、市の財政事情もある。

**【委員】**

- ・すごく良い考えだと思う。住む人がいないと子どもも増えないので、それは学校だけ  
の問題ではなく、行政として原野谷をどうするのかということによって一体校をつくるので  
あれば、子どもが常時ある程度の人数を確保できるようにするということになる。そ  
ういう視点は必要ではないか。

**【委員長】**

- ・学校づくりはまちづくりといわれるが、実際に住む区画なりアパートが同時に進んで  
いくと、住環境の問題で外へ行くということも防げる。これからの日本社会全体の問  
題だと思うので、学校を新しくすると周辺の区画整理も進めていくという方法もある。
- ・色々な御要望がでていますが、全て実現すると良いと思う。今は要望の段階であり、こ  
れが将来的に要望のどれを活かして、どれに重点化するかはまた考えるとして、後  
に出すよりも先に出しておくということが重要である。

**【委員】**

- ・以前小学校で行った説明会（意見交換会）の時に、原田の方が「一体校にすると子ど  
もが全部流れてしまって、原田がお年寄りばかりになってしまう」とおっしゃって  
いた。今話を聞いていると、一体型に関しては素晴らしいと思うが、子どもを持って  
いないお年寄りの方から見ると、ちょっと目線が違うかなというところがある。
- ・学校で買い物ができること等は若い人には受け入れられるが、例えば学校にデイサー  
ビスがあり、お年寄りが来て、ちょっと体を動かす等あれば、小学生と中学生との交  
流も増えるし、例えば給食と同じものを作って食べれば安くすみ、交流にもなる、そ  
ういうことがあっても良いかと思う。

**【委員】**

- ・これについては、今回限りとししないで、次回もぜひ検討していただきたい。ちょっと  
間を置くと調べることができる。

**【委員長】**

- ・本日の検討内容について大きく分けると8点あった。
- ・1点目。原田地区と原谷地区の温度差があるので、運命共同体として考えていくこと  
が必要である。また。そうした意識を地区が持っているということが大切であるとい  
うこと。
- ・2点目は、原野谷中学校の耐久年数が限界に近い部分も見え始めている。本当の限界

になる前に建て替えが必要であって、子どもに被害が出ないように新しい施設を要望すること。

- ・ 3点目、広報が非常に重要である。地域住民の意識や認知度を高める必要があるということ。
- ・ 4点目、ソフト面で、児童生徒の様子や教育活動の一体型による有効性を地域住民にも発信して、そうしたものを認識した上で進めたいということ。
- ・ 5点目、施設面として、先進校で取り入れられている施設をはじめ、特別教室とかパソコン室、図書室、「あんり」の通園に活かされるような施設、あるいは、プールやデイサービス等の新しい提案を実現していただきたいということ。
- ・ 6点目、施設の中でも交流スペースの有効性が指摘された。地域の人々と交流するスペースは非常に大事であるということ。
- ・ 7点目、用地の確保や、区画整理について、これも総合的かつ現実的に進めていく。また用地の中にナイター設備等、若い人が魅力を感じるような施設が必要であるということ。
- ・ 8点目、若い人に向けた、遊具や図書館、商用施設の併設等、新しいタイプの学校も検討する必要があるということ。

以上で協議を終了する。

## 6 連絡事項について

### (1) 第4回委員会の内容について

平成30年4月27日（金）

### (2) 新たな学園づくり保護者説明会

#### ・ こども広場あんり保護者

平成30年5月1日（火） 10:00～11:30 こども広場あんり

平成30年5月2日（水） 19:00～20:30 こども広場あんり

#### ・ 原田小学校保護者

平成30年5月19日（土） 10:00～11:30 原田地域生涯学習センター

#### ・ 原谷小学校保護者

平成30年5月19日（土） 13:30～15:00 原谷地域生涯学習センター

※委員には御自分の地区の保護者説明会に参加願いたい。

## 7 閉 会